

シリーズ
原発・いのち・みらい
その21

第4回核兵器廃絶国際行動デーに参加して

集会に集った三百二十人が決意

本当の平和を取り戻そう

西川 忠之 (能美市・泌尿器科)

受け継ぐものとして、『はだしのゲン』が全世界的に平和教育の教材として広まりつつある状況を報告した。



巧みな日本語で語りにつなぐ。日本モーター・ユニバーサル・ピーナードさんが講演された。

今年で四回目となる「核兵器廃絶国際行動デー」が、核戦争を防止する石川医師の会(石川反核医師の会)と『はだしのゲン』をひろめる会の共催で開催された。

「核兵器廃絶国際行動デー」は二〇一〇年に国連で開催されたNPT(核拡散防止条約)再検討会議直後に、核兵器廃絶をめざす国際キャンペーン「ICAN」の呼びかけで、全世界的に始まった取り組みである。

今回は、毎年恒例の白衣の街頭キャンペーンから始まり、石川反核医師の会第二十六回総会、映画『はだしのゲン』を見たヒロシマ』の上映会、アサー・ピナード講演会が催され、県内外から三百二十人(上映会には三百五十人)が参加した。



小中学生も含む幅広い世代の方320人が参加し、満席となった金沢市文化ホール・大集会室

2つの
アピール案が
採択されて

六月九日(日)、香林坊大和バス停前にて、十分より白崎良明先生(核戦争を防止する石川医師の会代表世話人)の呼びかけで、「核兵器全面禁止アピール」署名運動が開始された。毎年恒例の白衣を着ての街頭キャンペーンである。四十分という短い時間であったが、六十筆の署名が集まった。この署名は秋まで継続し、十月を目途に国連総会に提出される。

十二時からは金沢市文化ホールに場所を移して、石川反核医師の会総会が開催

され、次のようなアピール案が採択された。①核兵器なき世界をめざし、地域の中でのICAN運動を一層推し進めること②福島原発事故がもたらす放射能障害の危険性を訴えて、原発に頼らない安心できる社会を実現すること。

ICAN運動は、「私にもできる反核運動」の合い言葉である。

『はだしのゲン』を見たヒロシマ』を鑑賞して

市民公開企画の開催に立ち、開会あいさつに立った浅妻南海江さん(『はだしのゲン』をひろめる会理事長)は、被爆者の体験を

中沢さんは手塚マンガに憧れ、後に母を残して上京したが、そこで被爆者に対する差別を知ることになった。当時、放射能は伝染病のようにうつると思われていた。中沢さんは原爆を落としたアメリカが憎かった。また、究明がなされな



白衣の街頭キャンペーンでは「核兵器・原発NO!」の風船を配りながら、核兵器全面禁止アピール署名への協力を求めた

での長期連載への道が開かれた。今年、『はだしのゲン』の「週刊少年ジャンプ」連載開始から四十年という記念の年。それを目前にした昨年十二月十九日、中沢さんは七十三歳の生涯を閉じた。

アサー・ピナードさんの講演も

映画上映後は、アサー・ピナードさんによる講演『炉は続くよ、どこまでも?』を聞近で聞くことができた。アメリカ人であり、ヒロシマ人でもあるピナードさんは言語学が専門で、詩人。

ピナードさんはアメリカにいたときから、終戦直前に二個の原子爆弾を、しかも短期間に落とされたマンハッタン計画そのものに疑問を抱いていた。本当に戦争を早期終結させるためならば、理論上、長崎に落とす必要はなかっただろうし、全国の都市に「パンプキン爆弾」などという模擬爆弾を落とす必要もなかった。そして、原爆投下は戦時下であったにせよ、明らかに軍人以外の市民の大量殺戮を目的としており、米国内法に照らしても明白

「原発・いのち・みらい」への「寄稿を募集しています」

福島第一原子力発電所の事故は、今なお、深刻な状況が続いています。保険医協会では、会員・関係団体・個人の方々からの「寄稿をいただき、本紙で紹介していきます」。

読者の皆様方の思いや、講演会のまとめなどをお寄せいただければ幸いです。

詳しくは、事務局までお問い合わせください。

「言葉」は成り立ちと視導人された真の目的は不明点によって表現が変わる。ヒロシマに於いては、プラウトウムの真の目的は、プラウトウムの型爆縮爆弾の完成と、副次的に利用して戦後世界の支配権掌握にあり、日本に原発がなかった。

「言葉」は成り立ちと視導人された真の目的は不明点によって表現が変わる。ヒロシマに於いては、プラウトウムの真の目的は、プラウトウムの型爆縮爆弾の完成と、副次的に利用して戦後世界の支配権掌握にあり、日本に原発がなかった。

「言葉」は成り立ちと視導人された真の目的は不明点によって表現が変わる。ヒロシマに於いては、プラウトウムの真の目的は、プラウトウムの型爆縮爆弾の完成と、副次的に利用して戦後世界の支配権掌握にあり、日本に原発がなかった。

「言葉」は成り立ちと視導人された真の目的は不明点によって表現が変わる。ヒロシマに於いては、プラウトウムの真の目的は、プラウトウムの型爆縮爆弾の完成と、副次的に利用して戦後世界の支配権掌握にあり、日本に原発がなかった。

「言葉」は成り立ちと視導人された真の目的は不明点によって表現が変わる。ヒロシマに於いては、プラウトウムの真の目的は、プラウトウムの型爆縮爆弾の完成と、副次的に利用して戦後世界の支配権掌握にあり、日本に原発がなかった。